

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.4.13-19

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

96:1 新しい歌を【主】に歌え。全地よ【主】に歌え。
 96:2 【主】に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと御救いの良い知らせを告げよ。
 96:3 主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざをあらゆる民の間で。
 96:4 まことに【主】は大いなる方 大いに賛美される方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。
 96:5 まことにどの民の神々もみな偽りだ。しかし【主】は天をお造りになった。
 96:6 威厳と威光は御前にあり 力と輝きは主の聖所にある。
 96:7 もろもろの民の諸族よ【主】に帰せよ。栄光と力を【主】に帰せよ。
 96:8 御名の栄光を【主】に帰せよ。ささげ物を携えて主の大庭に入れ。
 96:9 聖なる装いをして【主】にひれ伏せ。全地よ主の御前におののけ。
 96:10 国々の間で言え。「【主】は王である。まことに世界は堅く据えられ揺るがない。主は公正をもって諸国の民をさばかれる。」
 96:11 天は喜び地は小躍りし海とそこに満ちているものは鳴りとどろけ。
 96:12 野とそこにあるものはみな喜び躍れ。そのとき森の木々もみな喜び歌う。【主】の御前で。
 96:13 主は必ず来られる。地をさばくために来られる。主は義をもって世界をその真実をもって諸国の民をさばかれる。

”威光・尊厳・榮譽”という賛美がありますが、この聖句がモチーフになっています。この歌で賛美する喜びを感じたことのある人なら、この聖句のすば

らしさが分るでしょう。

私たちは日常では神経を使い、事細かな注意力が要求され、どうしても近視眼的な見方をしがちです。スケジュール帳に追われて、この世の必要を満たすことに心が奪われてしまいます。しかし、この世のすべてを支配なさっているのは神です。私たちの人生を導いておられるのは神です。

この神様への視点が失われてしまうとき、私たちは自分が何もので、どこに行くのが分からなくなってしまいます。それだけでなく本当の幸いとは何かさえ分からなくなり、消え去るものを果てなく追いも求めてしまったりするのです。

そのような私たちが、「全地よ。主に歌え。」と宣言し、「主は大いなる方」と賛美し、「主は公正をもって諸国の民ををさばかれる」と信頼するとき、自分を回復することができるのです。

この歌にあるように、大きな信仰を持って、主をたたえましょう。主をたたえつつ生活しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 火曜

詩篇



97:1 【主】は王である。地は小躍りせよ。
多くの島々は喜べ。
97:2 雲と暗黒が主を囲み義とさばきが御座の
基である。
97:3 火は御前に先立ち主の敵を囲んで焼き尽
くす。
97:4 主の稲妻は世界を照らし地はそれを見て
おののく。
97:5 山々は【主】の御前にろうのように溶け
る。全地の主の御前に。
97:6 天は主の義を告げ諸国の民はその栄光を
見る。
97:7 すべて偶像に仕える者 偽りの神々を誇
る者は恥を見る。すべての神々よ主にひれ伏
せ。
97:8 シオンは聞いて喜び ユダの娘たちも小
躍りしました。【主】よあなたのさばきのゆ
えに。
97:9 【主】よあなたこそ全地の上におられる
いと高き方。すべての神々を超えて高くあが
められています。
97:10 【主】を愛する者たちよ。悪を憎め。
主は主にある敬虔な者たちのたましいを守り
悪者どもの手から彼らを救い出される。
97:11 光は正しい者のために蒔かれている。
喜びは心の直ぐな人のために。
97:12 正しい者たち。【主】にあって喜べ。
その聖なる御名に感謝せよ。

神様を賛美するのに、そのさばきを歌うのはふさ
わしくないと感じるかもしれません。さばきなどな
い方が、神様の愛が強調できて、もっと讃えたくな
るかもしれません。しかし、悪をさばかずに放置し
てというような神であるならどうでしょうか。本当の

信頼が生まれるでしょうか。

私たちが高らかに賛美する神は善悪の区別も付
けられないような方ではありません。争いや暴力
や不正を野放しにするような方ではありません。
そのような存在が神ではないことは誰でも分るで
しょう。

ですから、正しいさばきをなす神への賛美は当
然のことです。そのさばきが「主の義」であるこ
とと、「主の栄光」であることが大切です。義に
して全能の神なのです。ですから私たちは。「聞
いて、喜び、…こおどり」するのです。私たち主
に従う者は「心の直ぐな人」であるからです。s
のような者として一日を歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 15日 水曜

詩篇



98:1 新しい歌を【主】に歌え。主は奇しいみわざを行われた。主の右の御手聖なる御腕が主に勝利をもたらしたのだ。

98:2 【主】は御救いを知らしめご自分の義を国々の前に現された。

98:3 主はイスラエルの家への恵みと真実を覚えておられる。地の果てのすべての者が私たちの神の救いを見ている。

98:4 全地よ【主】に喜び叫べ。大声で叫び喜び歌いほめ歌を歌え。

98:5 【主】にほめ歌を歌え。豎琴に合わせて。豎琴に合わせほめ歌の調べにのせて。

98:6 ラッパに合わせ角笛の調べにのせて王である【主】の御前で喜び叫べ。

98:7 海とそこに満ちているもの世界とその中に住むものよ鳴りとどろけ。

98:8 もろもろの川よ手を打ち鳴らせ。山々もこぞって喜び歌え。

98:9 【主】の御前で。主は地をさばくために来られる。主は義をもって世界をさばき公正をもって諸国の民をさばかれる。

主をほめたたえるべき主題はいくらでもあります。ここでは、「聖なる御腕が主に勝利をもたらした」という、かつてのみわざが主題になっています。それは紅海を分けてイスラエルをエジプトの奴隷状態から救い、またヨルダン川をせき止めてイスラエルを約束の地に導かれました。

それはまさに「全地」が主をたたえるようにして、「海」と「川」が「主の御前で喜び歌」っていると、言ってもよいでしょう。全ては主の栄光のために創造されたのですから、それも当然のことです。

しかし万物は人間の罪のゆえに呪われてしまいました。私たち罪贖われた者こそが、万物を呪いから解放する宣言とともに、「世界とその中に住むもの

よ鳴りとどろけ。」と宣言できるのです。

これは私たちの特権であり責務です。このような賛美を心に持ちましょう。そしていつも主のゆえに万物の回復を祈りましょう。またこの世の全てが主に立ち返る日を望みましょう。そのような世界観を持って、人生を大きく考えて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 16日 木曜

詩篇

99:1 【主】は王である。国々の民は恐れおのけ。ケルビムの上に座しておられる方に。地よ震えよ。

99:2 【主】はシオンにおられる大いなる方。主はすべての国々の民の上に高くなります。

99:3 大いなる恐れ多い御名をほめたたえよ。主は聖なる方。

99:4 王は力をもってさばきを愛する。あなたは公正を堅く立てさばきと正義をヤコブの中で行われた。

99:5 われらの神【主】をあがめよ。その足台のもとにひれ伏せ。主は聖なる方。

99:6 モーセとアロンは主の祭司たちの中にサムエルは御名を呼ぶ者たちの中にいた。彼らは【主】を呼び主は彼らに答えられた。

99:7 主は雲の柱から彼らに語られた。彼らは主のさとしと主が賜ったおきてを守った。

99:8 われらの神【主】よあなたは彼らに答えられた。あなたは彼らには赦しの神彼らの悪しきわざには報復される方。

99:9 われらの神【主】をあがめよ。その聖なる山に向かってひれ伏せ。まことにわれらの神【主】は聖なる方。

ここでは神をほめたたえるにあたって、その王であられることが強調されています。王は統御し指導します。また秩序をもたらして社会を導きます。まさに主はそのようなお方であり、人間の王ではなく、ケルビムすなわち天使の上の御座におられる聖なる王なのです。神は人間の王と違って、「公正」「正義」を行う方です。

私たち人間は、およそ他人に関する限りは「公正」「正義」のさばきを求めますが、事自分になると、正義を曲げてでも神様に赦していただきたいと思ってしまうものです。神様はそんな私たちを十字



架のゆえに赦してくださるのですが、それを当たり前にしてしまうことは危険です。神の正義も自分の罪も十字架の恵みも、何も分らない者になってしまいます。

まずは「あなたは彼らには赦しの神 彼らの悪しきわざには報復される方。」という神様であることを忘れてはなりません。赦された者として安心しつつ、公正と正義の神様を喜ばせるような生活をしましょう。決心、決断をしましょう。またそのような思いをもち続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 金曜

詩篇



<100> 指揮者のために。ダビデの賛歌。

100:1 全地よ【主】に向かって喜びの声をあげよ。

100:2 喜びをもって【主】に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。

100:3 知れ。【主】こそ神。主が私たちが造られた。私たちは主のものの主の民その牧場の羊。

100:4 感謝しつつ主の門に 賛美しつつその大庭に入れ。主に感謝し御名をほめたたえよ。

100:5 【主】はいつくしみ深く その恵みはとこしえまで その真実は代々に至る。

ここまで続いた賛美の集大成のような歌です。命令形で書かれていますが、そこには押し付けがましい感じはなく、当然のこととして受け入れる気持ちになれます。それは私たちが「主のもの、主の民、その牧場の羊」だからです。

牧場の羊とは詩篇において特徴的な表現です。羊はその牧場にいるときには安心です。狼などがいませんし、食べ物も十分にあります。「その…」ということは、主の…という意味ですから、主が養ってくださるので、これ以上の生活はありません。

しかも「そのいつくしみはとこしえまで」続くのですから、言うことはありません。これは礼拝の歌です。私たちも礼拝のたびに、この安心と感謝を主に表わしつつ、大庭に入ってゆきましょう。また日常生活でも、朝ごとにこの恵みに入ってゆけるだという意識を持って、賛美しつつ一日を始めましょう。

さらには、主はどこにでもおられるのですから、学校でも職場でも、楽しい場所でもストレスのある場所でも、感謝しつつ賛美しつつそこに入ってゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 18日 土曜

詩篇

<ダビデによる。賛歌。>

101:1 恵みとさばきを私は歌います。【主】よあなたにほめ歌を歌います。
101:2 私は全き道に心を留めます。いつあなたは私のところに来てくださいますか。私は家の中を全き心で行き来します。
101:3 私は目の前に卑しいことを置きません。私は曲がったわざを憎みそれが私にまといつくことはありません。
101:4 曲がった心は私から遠ざかります。私は悪を知ろうともしません。
101:5 陰で自分の隣人をそしめる者を私は滅ぼします。高ぶる目とおごる心に耐えることはできません。
101:6 私の目はこの国の忠実な人たちに注がれます。彼らが私とともに住むために。全き道を歩む者その人は私に仕えます。
101:7 欺きを行う者は私の家の中に住むことはなく偽りを語る者は私の目の前に堅く立つことはありません。
101:8 朝ごとに私は国の中の悪しき者をことごとく滅ぼし【主】の都から不法を行う者をことごとく断ち切ります。

ダビデは世には「卑しいこと」「曲がったわざ」「そしめる者」「高ぶる目」「欺きを行う者」「偽りを語る者」「悪しき者」「不法を行う者」が存在することを知っています。また一方彼は「全き道」「全き心」「忠実な人たち」「全き道を歩む者」が存在することも知っています。

ですから神様が恵みの神というだけでなく、さばきの神であることに喜びを感じるのです。善も悪も区別がつかないような神では、私たちはどう生きていけば良いのかわかりません。悪を野放しにするだ



けの神であるなら、この世は混乱の極みです。私たちが神様がさばきの主であることを喜びましょう。

そして、そのような神であるから、ダビデは「全き道に心を留め」「家の中を全き心で行き来」し、「目の前に卑しいことを置きません。」と決心し、「私は悪を知ろうとも」せず、自分に与えられた力によってそれを実行しています。すなわち「主の都から、不法を行なう者をことごとく断ち切る」ために、その力を用いているのです。ダビデのように、自分に与えられたことで、善なる神様にふさわしいことを実行しましょう。そうして、神様の善なることを、心から賛美しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



<102> 苦しむ者の祈り。彼が氣落ちして、自分の嘆きを【主】の前に注ぎ出したときのもの。

102:1 【主】よ私の祈りを聞いてください。私の叫びがあなたに届きますように。

102:2 私の苦しみのときに御顔を私に隠さないでください。私に耳を傾けてください。私が呼ぶときにすぐに私に答えてください。

102:3 私の日は煙の中に尽き果て私の骨は炉のように燃えているのです。

102:4 私の心は青菜のように打たれてしおれパンを食べることさえ忘れました。

102:5 私の嘆きの声で私の骨は肉に溶けてしまいました。

102:6 私はまるで荒野のみみずく廃墟のふくろうのようです。

102:7 私は眠ることもできず屋根の上のはぐれた鳥のようになりました。

102:8 敵は絶えず私をそしり嘲る者は私を名指しにして毒づきます。

102:9 まことに私は灰をパンのように食べ飲み物に涙を混ぜ合わせました。

102:10 それはあなたが憤りと激しい怒りのゆえに私を持ち上げ私を投げ捨てられたからです。

102:11 私の日は伸びていく夕影のようです。私は青菜のようにしおれています。

102:12 しかし【主】よあなたはとこしえに御座に着いておられます。あなたの呼び名は代々に及びます。

102:13 あなたは立ち上がりシオンをあわれんでくださいます。今やいつくしみの時です。



定めの時が来ました。

102:14 まことにあなたのしもべたちはシオンの石を喜びシオンのちりをいとおしめます。

102:15 こうして国々は【主】の御名を地のすべての王はあなたの栄光を恐れます。

102:16 なぜなら【主】はシオンを建て直しその栄光のうちに現れ

世に悪がはびこっていたとしても、その悪をさばくのが主であるゆえに、私たちは賛美を続けます。またたとえ、自分が「氣落ちして」「嘆き苦しんでいる」ときでも、私たちは賛美し続けます。なぜなら主は「答えて」くださる方だからです。

賛美とは信仰の宣言です。何を信じるのかを表わすものです。その賛美によって、私たちの心の方向性が決まります。ですから私たちは、まだ苦しみの内にあるときから賛美するのです。救いと回復の方向性を与えられたいからです。またそれを信じているからです。

賛美の中には心の癒しもあります。この詩人のように、苦しさを告白することは癒しにつながります。それは心理的にも言えますが、信仰者の場合はさらに意味があります。その告白を主が聞いてくださるという安心と期待です。さらにはその主が全能の御手を持って、癒してくださるという事実です。

氣落ちしているなら賛美しましょう。不安があるなら賛美しましょう。心が苦しいなら賛美しましょう。ストレスがあるなら賛美しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（氣持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

